

旬のデジタルモードを楽しむ

# JTAlert + WSJT-Xで

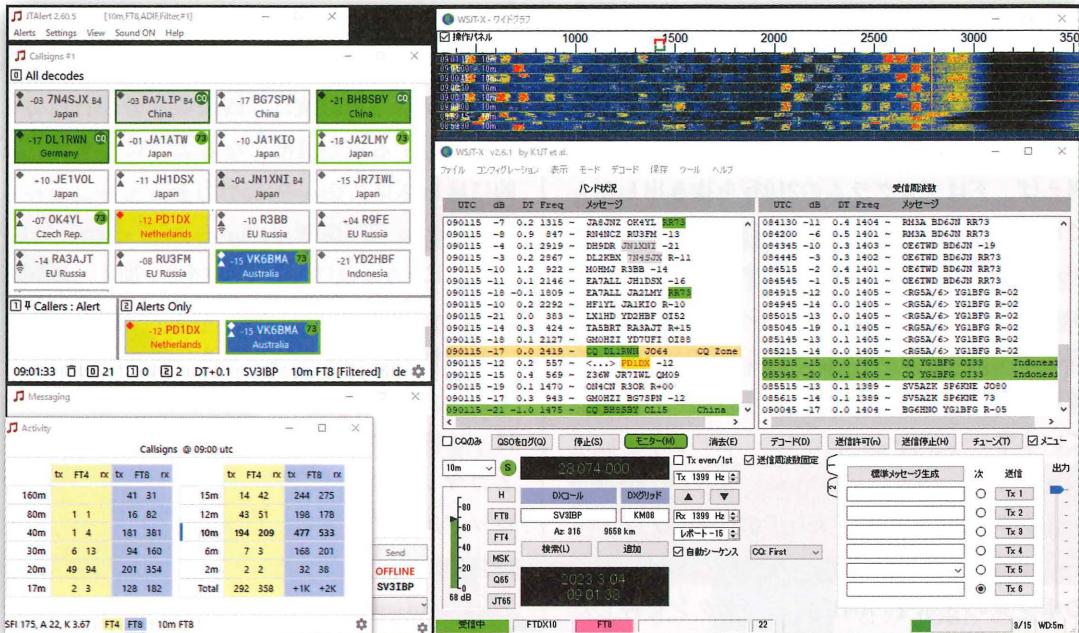


図1 JTAlertと組んだWSJT-X

JTAlertはWSJT-XやJTDXでデジタルモードをHFで運用するときのためにVK3AMA Laurie(ローリー)さんが開発したサポートソフトです。発表当時はJT65全盛期で、受信が終わった後の10秒間の間に交信相手(CQを出した局)と文面を選ぶ必要があり、どの局と交信するかを見極めるソフトウェアとして開発され、高頻度なバージョンアップで今に至ります。FT8/FT4では交信相手を選ぶ時間は極めて短くなり、運用局も増え、バンド状況欄に表示しきれないことも珍しくなくなりました。JTAlertは数々の便利な機能で交信相手を選ぶアクションをとてもラクにして私たちのFT8/FT4運用を快適なものにしてくれます。

以前、作者のローリーさんにQEX Japan誌に解説記事を寄稿し掲載されたと報告したところ、その件をJT AlertのサポートMLで紹介していただきました。そこに添えられたメッセージは「バージョンアップにより、テキスト機能は日本語にも対応しているから、ぜひ使いこなしてFT8/FT4のQSOを楽しいものにしてください」

でした。皆さんもぜひ活用されてはいかがでしょうか。

## JTAlertの便利機能の数々

JTAlertはWSJT-X(またはJTDX)と一緒に動作させることで(図1、図2)，次のような便利な機能が追加されます。

### (1) Callsigns ウィンドウによる受信局表示

ホワイトボードに貼り付けた「ふせん」のように受信できた局の情報が表示されます。ウィンドウの拡大縮小も自由自在なので、PCの文字は小さくで見づらい！という方にもお勧めです。ふせんの中に表示される情報の意味は図3のとおりです。バッヂや色の違いで判別できます(図4)。情報の表示/非表示はCallsign Optionsで選べます(p.160、図5)。

自分がコールされると、赤色でCallersに表示されます(p.160、図6)。ふせんを(ダブル)クリックすると、



# FT8 快適運用

JR1AQN 前田 正明 Masaaki Maeda

(米国 Briarcliff Manor, NY在住)

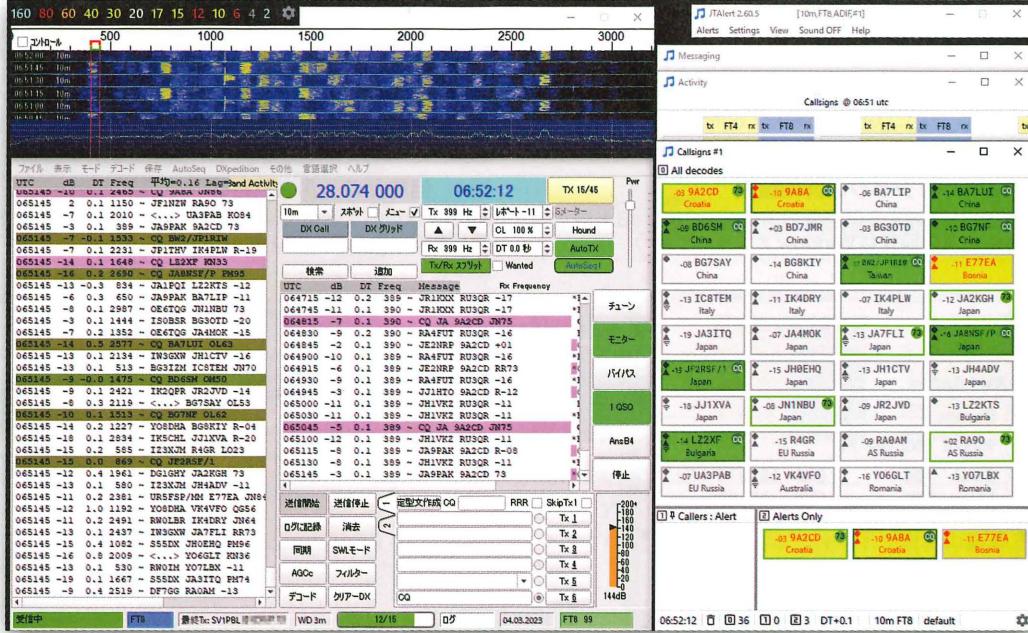


図2 JTAlertと組んだJwdx

次の通信手順に移れます。つまり、CQバッチが付いている局やCallersをクリックするとその局をコールできます。ふせんにマウスオーバーすると、その局の情報が細かく表示されます(p.160、図7)。WSJT-Xは交信中の局も呼び出せます。Jwdxの場合にはCQバッチが付いた局、Callersを呼び出せます。

## (2) アラート対象局は

### Alerts Only欄に出現

アラート対象局のみAlerts Only欄に表示されます(p.160、図8)。設定によりアラーム音も出せます。アラート対象局は未交信エンティティー、米国州、CQ/ITUゾーンなどが設定でき、ふせんにも色が付きます(p.161、図9)。CQアラートをONにして待ち受けければアクティビティーが低いバンドでの交信や想定外のオープンも見逃しづらくなります。

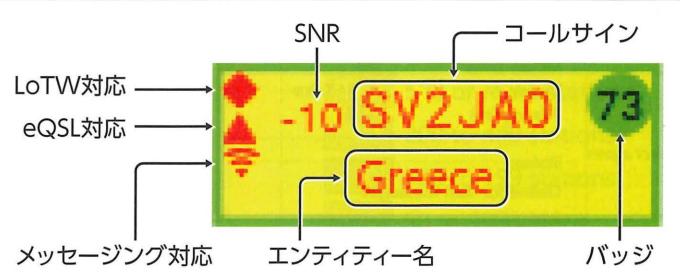


図3 「ふせん」に書かれた情報の意味

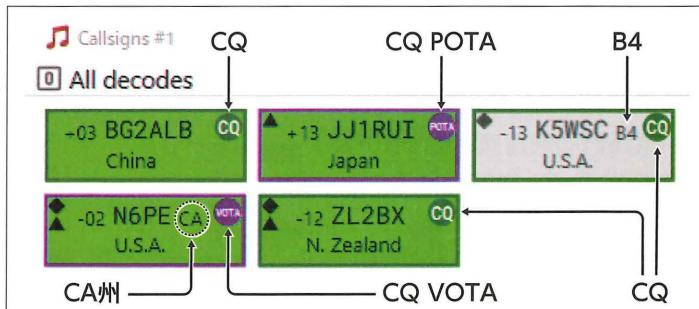


図4 ふせんの表示例



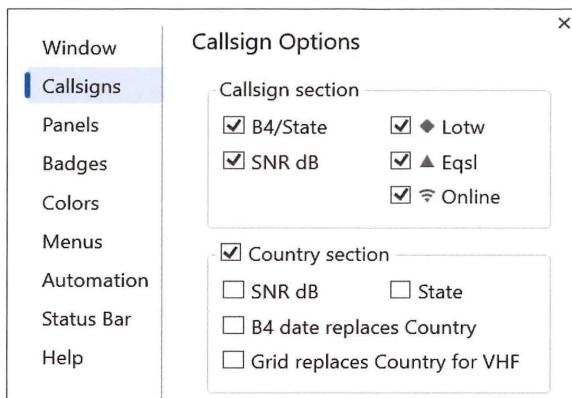


図5 Callsigns ウィンドウの詳細設定

Callsigns 設定を当図のようにするとふせんに SNR dB も表示される。拡大縮小値の設定は Window メニューで行う



図6 自局がコールされた様子

All decodes, Callers : Alert, Alerts Only に赤色で表示され、呼ばれたことを猛烈にアピールしてくれる

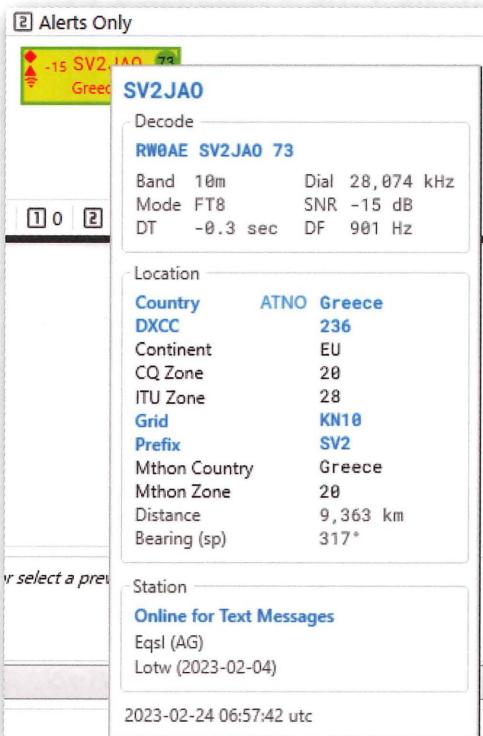


図7 ふせんにマウスオンで詳細表示

### (3) メッセージングが可能

JTA Alert の利用局同士でリアルタイムなチャット（メッセージング）ができます（図10）。このウィンドウはショートカットキー（F5）でスパッと前面に持ってこられます。1つ前の文章やあらかじめ作っておいた定型文をそのまま利用でき、3つ前の局までメッセージを打てます。利用方法として、QRNによるバンド変更リクエストなど

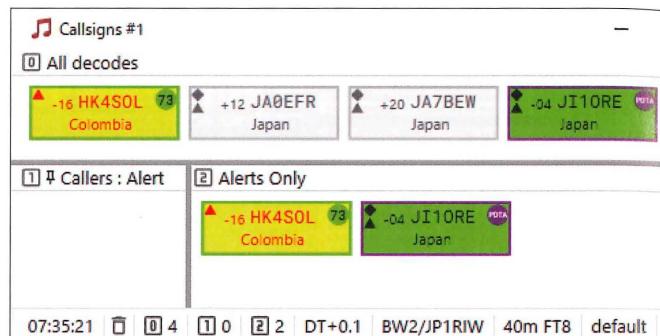


図8 アラート対象局は Alerts Only にも表示される

混雑しているときは All decodes に表示しきれなくなる場合がある（ウインドウを広げれば表示できる）。運用中は Alerts Only 表示を活用すると便利

がありますが、筆者の場合、日本語でメッセージをいただくこともあり、うれしく思うことしばしばです。

### (4) バンドアクティビティーが一目瞭然

各周波数帯でどのモードがどれだけのアクティビティーがあるかが分かるアクティビティーウィンドウがあります（図11）。筆者は運用開始直後にどのバンドでどのモードがどれくらいにぎわっているかを運用開始前にこれで把握しています。地域別にフィルターもかけられ、画面のどこかに出しておくととても参考になります。

### (5) アクティビティーサインのミニ版もある

バンドヒートウィンドウ（図12）では各バンドの利用状況が色で分かれます。図13は色分けの初期値で、新局がオンエアすると点滅します。160/80m バンドが点滅したと夕方だな、と分かります。



図9 各アラートの配色一覧

ツールバーから View → Types Summary Windows を選ぶと出現。左のチェックボックスでアラートの有効/無効を選べる

## (6) デコード内容一覧から呼べる

デコードウィンドウ(図14)は、デコードされた局の詳細一覧表です。ふせんと同じ色分けで表示され、フィルターもかけられます。コールサインをクリックすればそのままコールできるので、詳細を見ながらコールする局を判断したい方にはうってつけの機能です。

図10 Messgaing ウィンドウ

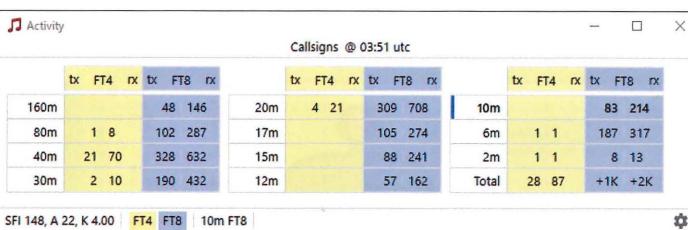
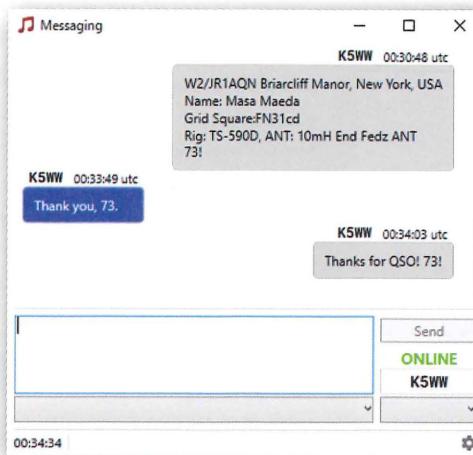


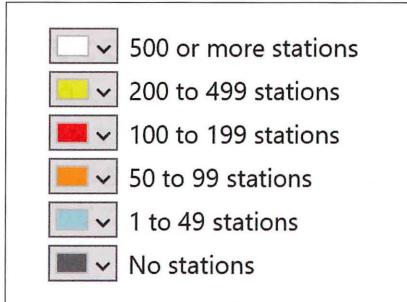
図11 Activity (アクティビティー) ウィンドウ

バンド / モードごとの運用局数を表示。ウィンドウ右下の歯車アイコンで詳細を設定可能



図12 Band Heat (バンドヒート) ウィンドウ

図13 Band Heat ウィンドウ表示の配色一覧



Src	CQ	DX Callsign	Date	Time	Mode	Band	Dxcc	Cont	St	Grid	Pfx	CQZ	ITU	M	W	L	E	Alerts	Country Name	State or Province	D8	DT	DF	KHz	km	SP	Exchange
De...	*	N3RVB - ...	202...	09:3...	FT8	40m	291	NA	W...	FM19	N3	5	8		Y	Y	I	United States	West Virginia	-20	+	25...	7074	10...	28	CQ N3RV...	
De...	*	VV5ILO	202...	09:3...	FT8	40m	148	SA	FK60	YV5	9	12	CZ	Y	Y	II	Venezuela		-12	0.0	17...	7074	14...	34	CQ VV5ILO...		
De...	*	VK4PCS	202...	09:3...	FT8	40m	150	OC	QG62	VK4	30	55		Y	Y		Australia		-04	+	831	7074	71...	167	CQ VK4PC...		
De...	*	VV5ILO	202...	09:3...	FT8	40m	148	SA	FK60	YV5	9	12	CZ	Y	Y	II	Venezuela		-24	0.0	17...	7074	14...	34	CQ VV5ILO...		
De...	*	VK4PCS	202...	09:3...	FT8	40m	150	OC	QG62	VK4	30	55		Y	Y		Australia		-07	+	832	7074	71...	167	CQ VK4PC...		
De...	*	PVSJQ	202...	09:2...	FT8	40m	108	SA	GG54	PY5	11	15	CZ	Y	Y	II	Brazil		-24	-0.6	15...	7074	18...	38	CQ PVSJQ...		
De...	*	VV5ILO	202...	09:2...	FT8	40m	148	SA	FK60	YV5	9	12	CZ	Y	Y	II	Venezuela		-18	0.0	17...	7074	14...	34	CQ VV5ILO...		
De...	*	WB4CTX - ...	202...	09:2...	FT8	40m	291	NA	XV	EM78	WB4	4	8		Y	Y	I	United States	Kentucky	-24	+	24...	7074	10...	33	CQ WB4...	
De...	*	K7OSI - WA	202...	09:2...	FT8	40m	291	NA	W...	CN87	K7	3	6		Y	Y		United States	Washington	-13	-0.1	14...	7074	76...	46	CQ K7OSI...	

図14 Decodes (デコード) ウィンドウ



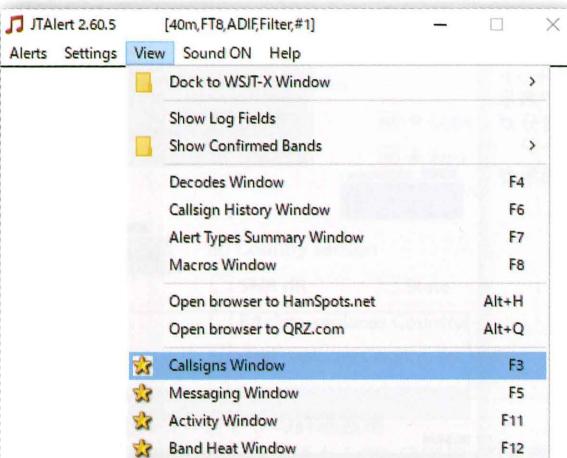


図15 ツールバーのView(ビュー)メニュー  
各ウィンドウの表示設定はこれら。ショートカットキーも分かる

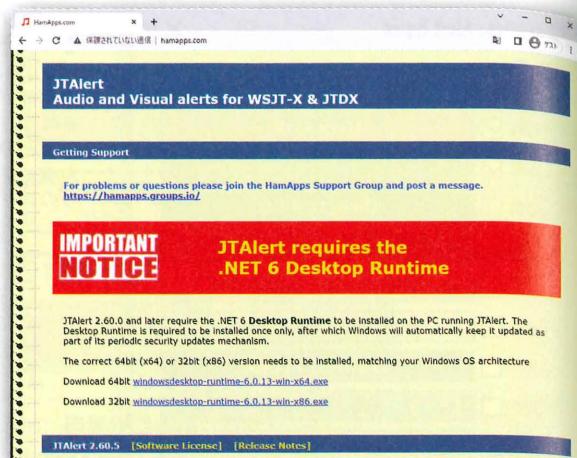
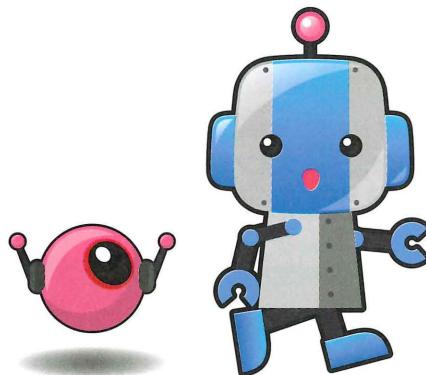


図16 JTAlertのWebサイト  
<https://www.hamApps.com/>



## (7) 便利なソフトウェアランチャー機能

JTAlertの起動時、設定によりWSJT-XやTurbo HAMLOGも一緒に起動させて同時稼働できます（閉じる場合は各ソフトごと）。起動の順番違いや起動し忘れを防げます。

## (8) ウィンドウ表示/非表示は自由自在

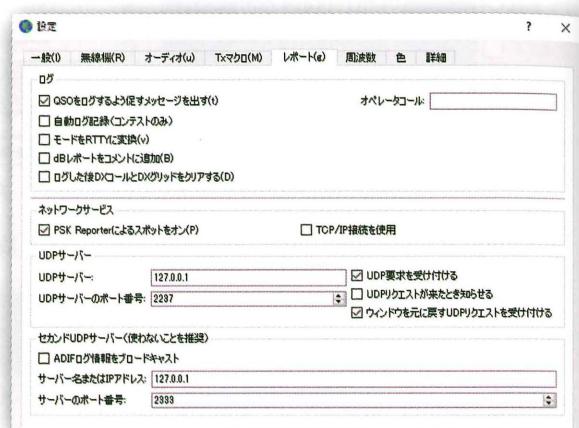
JTAlertのツールバーにあるViewメニュー（図15）で主なウィンドウの表示/非表示が選べます。★印が付いたウィンドウ（機能）はよく使うものです。

### セットアップのツボ

JTAlertのセットアップ手順の概要を紹介します。

#### ① JTAlertの入手

<https://www.hamApps.com/>（図16）でダウンロー



#### 図17 WSJT-Xの設定箇所

ファイル→設定→レポート（タブ）で開く。  
ログ、UDPサーバーの設定はこのようにする

ドします。Microsoft .NET 6 Desktop Runtimeも必要ですが、同サイトのリンクからダウンロードできます。Callsign DatabaseとSound Files（お勧めはEnglish US.）もダウンロードしてセットアップします。

#### ② WSJT-XとJTDXの設定

図17のようにUDPサーバーに関する設定を行います（数カ所にチェックを追加、他は初期値）。「QSOをログするよう促すメッセージを出す」にもチェックしておくと便利です。

#### ③ JTAlertの「Settings」を設定

JTAlertはWSJT-XやJTDX（以下、WSJT-Xで説明）を起動してから動かします。

JTAlertのメニューbaruでSettings→Manage Settingsを選ぶと、設定の全項目（図18）が出てきます。

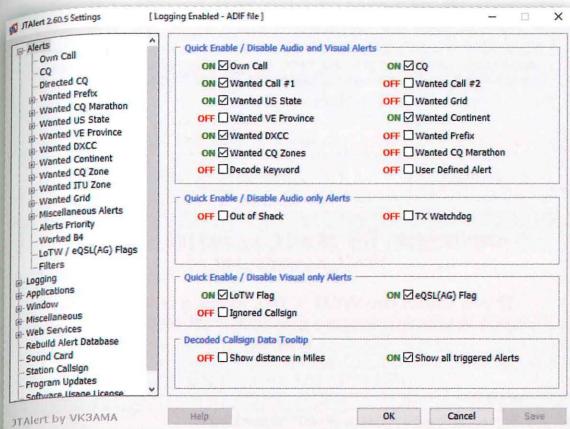


図18 Settings(セッティングス)メニュー

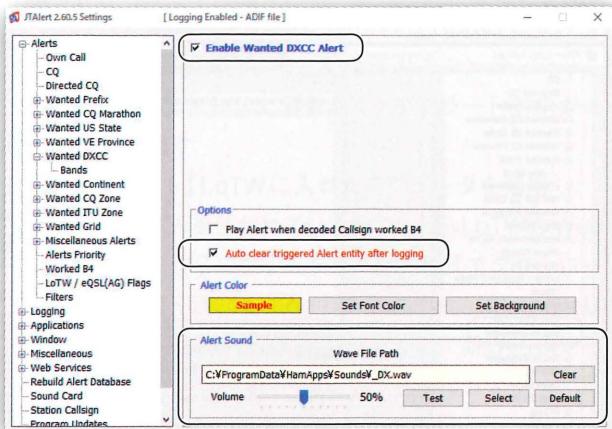


図19 DXCCアラートの有効設定例

Settings → Alerts → Wanted DXCC. 設定のポイントは Enable... と Alert Sound のファイルの Select

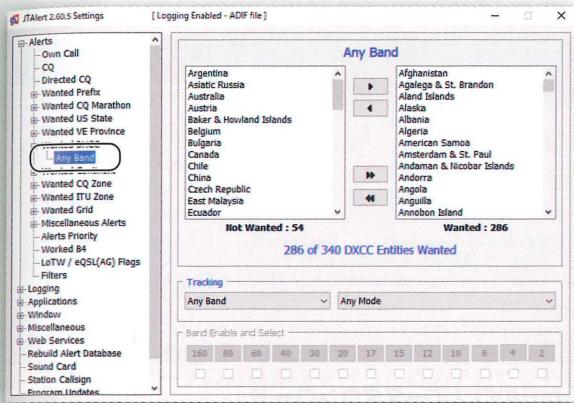


図20 DXCCアラートのアラート対象設定

Settings → Alerts → Wanted DXCC → Any Bands (または Bands)

項目の多さに圧倒されますが、まず設定したいのは、Station Callsign と、Alerts → Own Callです。

#### ④ アラートの設定

アラートを出すか出さないかは Settings → Alerts の枝分かれの中にある各項目をお好みで設定していきます。CQ を受信したら出るアラートは、Alerts → CQ を Enable に。その他、未交信エンティティー局をアラート対象とするには、Wanted DXCC のところを Enable にして (図19)、さらに下の枝分かれのメニューで交信済みのエンティティーをバンドごと (By Individual Band) または全バンド (Any Band) で登録します (図20)。

これは手作業または自動 (後述) でセットでき、手作業の場合はここで根気よく登録します。

図19のAuto clear triggered Alert entity after

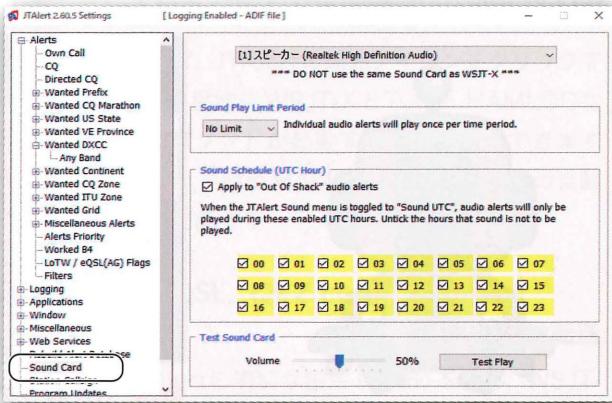


図21 アラートに使うサウンドデバイスの選択

Settings → Sound Card

logging にチェックすると、アラート対象局がログインされるとそのエンティティー (など) はアラートが出なくなります。必要に応じてチェックします。

#### ⑤ 音も出したいときは

Settings → Sound Card で図21 のように PC の「スピーカー」を選んで、PC にスピーカーをつなぎます (ノート PC の場合は一般的に内蔵スピーカーで可能)。PC と無線機を PC 内蔵のサウンドデバイスの出力とつないでいる場合は別のスピーカーがつながる別のサウンドデバイスを用意して指定します。

各アラート設定ウィンドウの Alert Sound に wav ファイルを指定するとアラート音が出ます (図19)。この音を出すと FT8 運用がとてもにぎやかになり、楽しさが増します。ぜひお試しを。



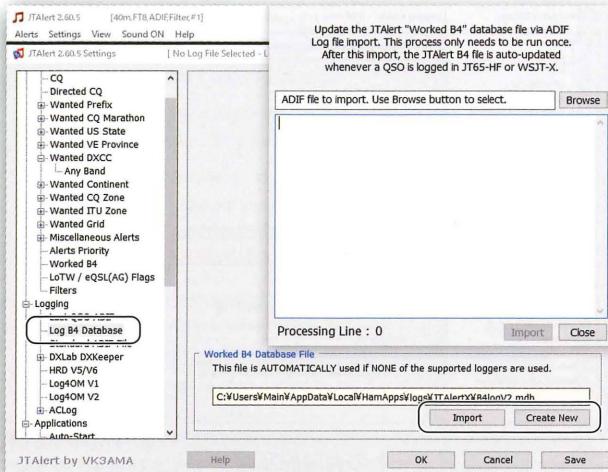


図22 B4判定データベースへのインポート  
Settings→Logging→Log B4 Database

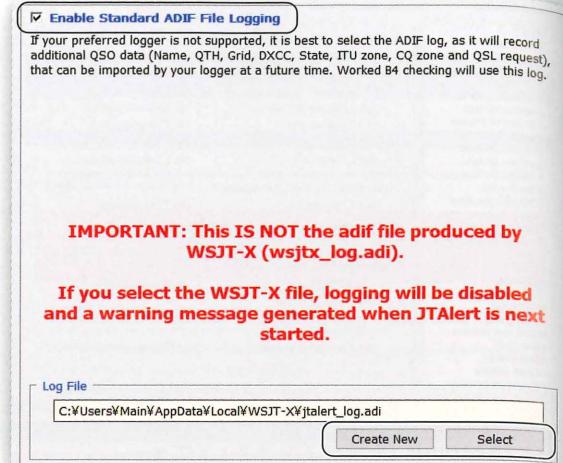


図23 Standard ADIF Fileの設定  
Settings→Logging→Standard ADIF File

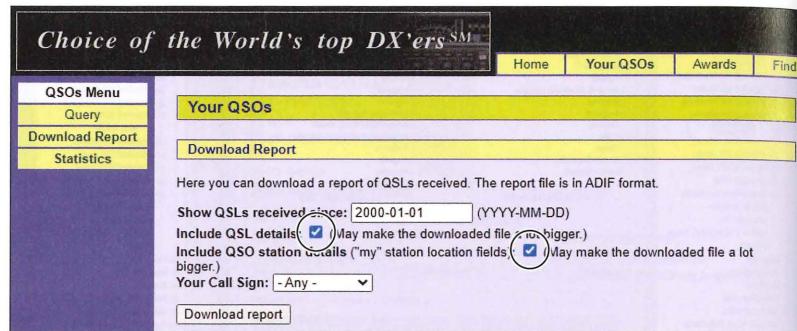
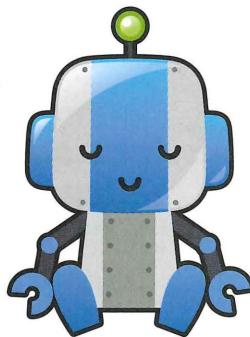


図24 LoTWシステムからのログデータダウンロード  
Include QSL details, Include QSO station detailsの両方にチェックしてDownload reportボタンを押す

## B4判定用の設定と Rebuild Alert Databaseの実行例

### (1) B4 (Before) 判定のために

初めてJTAlertをセットアップしたときは、SettingsのLogging→Log B4 DatabaseでCreate Newボタンを押します。その後、B4にしたいQSOデータが書かれたADIF形式のファイル（例えば、使い続けてきたWSJT-Xのwsjtx\_log.adif）をJTAlertのLog B4 DatabaseにImport（図22）することで、JTAlertのB4判定に反映します。一度Create Newを行えば、交信するごとにデータベースに追加されていくので、手放しで大丈夫です。

なお、Standard ADIF File（後述）をEnableにしてあると、このWorked B4 Database FileのImportや

Create Newができません（Enableを解除すれば可能）。

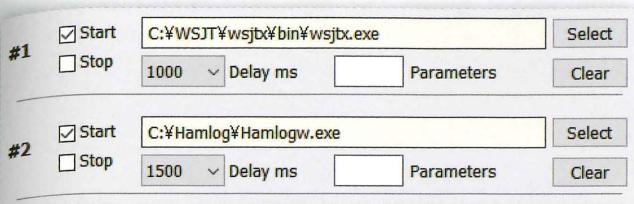
### (2) アラート対象の自動設定

便利なRebuild Alert Databaseという機能があります。これは、設定されたStandard ADIF File（図23）を読んで、未交信のエンティティー／ゾーン／米国の州／グリッドなどのアラーム対象を自動的に設定し直してくれます。ただし、今までの設定内容が失われる所以最初に手作業で設定された方は要注意です。

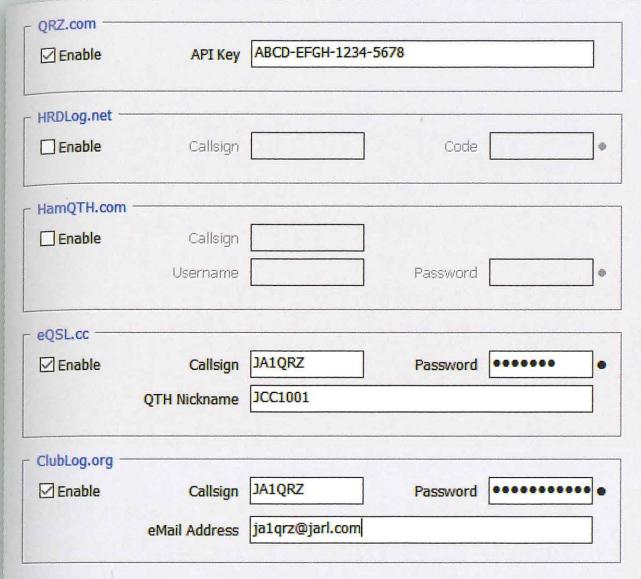
【手順】QSOデータが入ったADIFファイルを用意してwsjtx\_log.adif以外のファイル名で任意のフォルダに入れ、Settings→Logging→Standard ADIF FileのSelectボタンでそのファイルを指定、Enable Standard ADIF File Loggingにチェックを入れます（図23）。

もし、すでにStandard ADIF Fileを利用している場

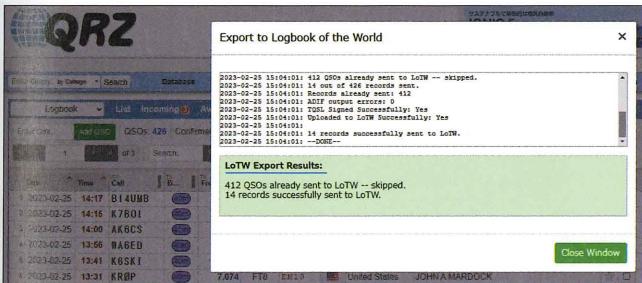




**図25** JTAlertの起動と同時に立ち上げたいソフトウェアの設定  
Settings→Applications→Auto Start



**図26** QSOデータの自動転送を行うためのアカウント設定  
Settings→Web Services→Online Logbooks



**図27** QRZ.comのログデータをLoTWに転送した様子

今は、① Rebuildした後に今まで使っていたADIFファイルをSelectし直す ② 現用中のADIFファイル自体を編集(スキヤンさせたいファイルをマージ)してスキヤンさせる、のいずれかが考えられます。

次に、JTAlertを再起動し、Settings→Rebuild Alert Databaseで設定したいAlert(例: Wanted DXCC)を選んで読み込みます。このとき、No QSL

Confirmation (Any Worked Station) にチェックして実行すると交信済みのエンティティー(コンファームに関係なく)がアラート対象から外れます。

#### 【ヒント】LoTWに入れたログデータを活用

LoTWを使われている方でしたらLoTWのWebサイトからログデータをADIF形式でダウンロードして(図24)、Log B4 DatabaseにImportしたり、Rebuild Alert Databaseで読み込ませるStandard ADIF Fileとして利用できます。

## JTAlertと外部ソフト/サービスとの連携

### (1) 起動ソフトとの連携

例えば、JTAlertの起動アイコンをクリックすれば、自動的にWSJT-XとTurbo HAMLOGなどのログソフトが起動するように設定できます(図25)。Turbo HAMLOG側でJT-Get'sの自動起動が可能です。

### (2) eQSL, QRZ.com, Club Logへの自動転送

JTAlertに適切な設定(図26)を施し、WSJT-Xの「QSOをログ」ボタンを押すだけで、交信するたびにログに記録すべきデータがこれらのサービスに送られます。LoTWへの自動転送機能はありませんが、QRZ.comでHam MemberになりSubscription(XML Logbook Data以上)を得れば、QRZ.comからLoTWへログデータを転送できます(図27、自動ではなく範囲指定で転送する)。

## まとめに

今は特にHFハイバンドのコンディションが良く、JT Alertの便利さが実感できると思います。アラートが鳴りすぎる場合は、フィルター機能などを活用したり臨機応変にアラート対象を選択できるようになっています。とても便利なサポートソフトです。まだの方はぜひセットアップしてみてはいかがでしょうか。

